

菊陽人 りさーち



なかはら りら
中原 璃良さん (8歳)
[馬場楠]

- 趣味 フラダンス
- 将来の夢 モデル
- 自慢 宿題を頑張る
- 今一番やりたいこと 毎日自分をほめること

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



いのうえ ゆい
井上 結依さん (8歳)
[光団地]

- 趣味 縄跳びをすること
- 将来の夢 保育士
- 今一番やりたいこと 子ども会駅伝を走ったので、お風呂に入りたい
- 家族へのお願い 猫がほしいです

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.13】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

人間は気づいて変わる場面があると思いますが、「お仕事をがんばっている」お母さんの生活や「どんな時でも人の命の大事さは変わらない」とする父の行動を心に留めるなど、二人とも貴重な気づきを得ています。
*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

「ぼくも がんばろうと おもったこと」

武蔵ヶ丘小学校4年 牧山海斗

「一つの花」を勉強してゆみ子さんにお手紙を書きました。
「ゆみ子さん、おとうさんがいなくなつてさびしいですか？ぼくのお父さんも二才のころなくなりました。ゆみ子さんのお父さんが戦争に行ったところといつしよくらいですね。ぼくは、さびしいです。最後にもらった一輪のコスモスがたくさんのコスモスになっていましたね。
コスモス大事にしてください。」と書きました。
「一つの花」を勉強したときに、お父さんのことを思い出して、「わたしは負けない」を勉強したときには、お母さんを思い出しました。
ぼくは、今、そうじとか夜ご飯作りを家でごんばつています。それは、お母さんが夜おそく帰って来ないからです。だから、お母さんのお手伝いをしています。宿題は自分たちでします。音読はお姉ちゃんが聞いてくれます。そうじは、ぼくたちがやると、お母さんはうれしそうです。夜ご飯は、



▲一緒にパチリ

「私の父」

菊陽中学校1年 藤本 佳奈

父の仕事は救急救命士です。どんなに危ない病気や台風などの危ない時でも仕事を拒むことは絶対にできません。台風でものすごい風と雨が吹いたり降ったりしていた休みの日、夜中の四時頃電話がかかり、すぐに仕事着に着替えて仕事に行きました。
また、家族4人で買い物に行った帰りに、バイクと車の衝突事故があったところを通りました。バイクの少年は頭からたたくさんの血が出ていました。父はすぐに車から降り、「救急車を待っていたら少年は助からない。」と言いつつ、その場にいた人達からタオルを渡さしてもらいました。私達は歩いて帰りました。その少年は助かり、父の職場まで「ありがとう」と言いました。「と伝えに来たそうなんです。私は父に「何で仕事じゃないのに、そんなことをしたの？」と聞くと、「どんな時でも人の命の大事さは変わらない。私はあの少年を助けたいと思ったから助けただけだよ。」と話してくれました。
休みの日にはほとんど夕飯を作ります。料理以外にも、家事をこなします。

きくよう文芸

菊陽句会報

残し来し雛へ愛着国破れ	坂本百合子	銀色の雨粒光る牡丹の芽	川口 豊子
掃きおへし庭の静寂に芽吹くもの	田中 郁子	背もたれに春の小さき列車旅	井上久美子
春一番阿蘇の噴煙煙ぎ倒す	村田 正三	何時の間にも土筆出揃ひ散歩道	宮川ユキエ
春の雪頂にあり阿蘇五岳	井 子文	彼岸会や世間話も誰彼と	日高 妙子
湯たんぽに頼る一夜のこの身とも	財津 早雪	愛犬の駆け出す野道風光る	曾我 育代
ムスカリの並び春風三角帽	原野レイ子	出入りの玄関匂ふ枝垂れ梅	曾我トモ子
ゆれ動く心つかめず春の海	西村ひとえ	白川の波煙めける寒の明け	紫藤 祥子
白木蓮浄土の花とや空高く	力 幸子	ほぐれつつ漲るカ山椒の芽	村上 朋子
春雨や雫かぶりし屋根の端	寺尾千代子	老農の生誕の脚麦を踏む	合志 重子
巣立つ娘の後ろ姿に梅香る	高橋 孝子	寒空に星が恋しと渡来鴨	東 廣喜
ランチして心うきうき春よ春	堀川 妙子	笹子鳴く庭のしじまを解くかに	野口 今史
農家の庭せばめ枝垂れ梅満開	佐藤 航	シヤボン玉ゆうらゆうらと故郷へ	松橋 強
クローバー四葉を一つ見つけたよ	佐藤 健	よるの神宥めて野火を放ちけり	佐藤 澄世
一世紀生きて祝がるる梅の宴	佐藤 節	さらさらと辛夷水飲む大花瓶	三島 一路
降るもよし芽吹き育てる雨ならば	吉野 早苗		

短歌会

田の道に黄色く咲ける菜の花は続ける雨に重たく見えし
遙かなる大地より来し砂嵐この二日三日空を覆いぬ
天空を収め輝くオリオンは夕暮るる西の果てに傾く
朝明けの街には夜の名残りあり信号の灯り一際輝く
真夜中に目覚めて居れば雨音の子守唄にも似てやさしかり
揚羽蝶隣りの庭に産みつけし卵かえりて吾庭を舞う

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
森 敦子
皆島キクノ



▲夢を語るなかま